

あすなる通信

11月
2024年
11月号
November

風の冷たさが身にしみるようになり、防寒着が必要になってきました。

あすなる教室の11月の目標は「体調管理に気をつかおう」でした。

今年も残り1か月、心と体の健康に気を付けて、みんなで元気にがんばりましょう！

今月の行事

- 5日(火) カウンセリング
- 5日(火) 外国語活動
- 13日(水) 理科学習
- 29日(金) 遠足(琴平・中野うどん学校)

※15日(金)まで、保護者懇談会

※25日(月)から、小中担任連絡会



活動の様子【外国語活動&理科学習】



【花植え】大生院公民館の神野館長から、今年も花の苗をいただきました。



【室長コラム】

秋も深まり、木々の葉も赤や黄色などの様々な色に変化を見せている。色づいた葉を丁寧に見ると、一枚として同じ色の葉はない。遠くから見れば同じように見える葉でも、近づいてよく見ると、同じ赤でも、黄色でもすべて色が違っている。それどころか、一枚の葉でも同一色ではなく、微妙に濃さが違っている。また、天候によって、光の角度によって、見る角度によって、色合いが違ってくる。

11月の終わり、気がつけば季節が変わり、木々の葉が様々な色に変わっていた。きっと私たちが気づく前から、様々な変化を見せていたに違いない。まずは木の内部で変化が起こり、それから葉の内部でも変化が起こり、やがて葉の表面にその変化が現れてくる。私たちはどの時点でその変化に気づいているのだろう。

立正大学の鹿嶋真弓教授が、子どもの支援についてこう語っていた。「『放任』と『見守る』は全く違う。子どもたちを見守るための第一歩は、変化に気づくことである。適切な距離で寄り添い、愛情ある目と心でじっと見続けていれば、きっと変化に気づくことができる。変化に気づいたら、子どもたちが求める適切な支援を適切な量だけ行っていく」ことが大切だという。

確かに、あすなる教室の子どもたちも様々な変化を見せてくれている。十人十色というが、最近特にひとりひとりが個性豊かだなと感じる時がある。でも、あすなる教室に通い始めたころは、そうではなかった。自分の色を出せずにいた。そんな子どもたちが様々な色合いを見せてくれるようになり、徐々に、濃くはっきりとしたそれぞれの個性が感じられるようになってきた。

鹿嶋教授は、「支援とは松葉づえのようなもの」とも言っていた。松葉づえは足を怪我した時のサボートとして必要なものである。でも、怪我が治ってしまえば、自分の足で歩く邪魔になってしまう。なるほど、支援はそうあるべきと再認識させてくれた。まずは子どもたちに寄り添って、小さな変化に気づくことを目指そう。そして、必要な支援を必要な量だけ、愛情をこめて続けよう。自分の力で足りなければ、人の力を借りてでも、必要じゃなくなるまで続けよう。そう思った。



「あすなる教室」

TEL 0897-37-7474

FAX 0897-32-6822

e-mail asunaro@city.niihama.lg.jp

